

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語科】

1. 対象 知的障害 小学部 1年生 2年生

本校は、小学部、中学部、高等部を設置する特別支援学校（知的障害）である。学校教育目標「心身ともに健康で、積極的に社会に参画する人の育成をめざす」に向けて、「自分事として学び、豊かな生活を実現する授業づくり」をテーマに研究を行っている。

本集団は、小学部1年生2人、2年生1人の計3人である。これまでの国語の学習では、学習指導要領国語科の第1段階を中心に取り組んできた。前単元「動物だれかな」では、シルエットや鳴き声、特徴的な部位から、知っている動物をイメージして絵カードを選んだり、動物の名前を答えたりすることができた。絵本『どうぶつ どんどん』の読み聞かせでは、繰り返しのあるストーリーの中で、挿絵を見ながら走ったり、ジャンプしたり、自分の手を長い鼻に見立てて動かしたりと、動物の特徴的な動きを動作化しながら、動きに合った擬音を使って表すことができた。言葉で言い表すことが難しい児童たちだが、ごっこ遊びをしたり、登場人物になりきったりすることが好きで、動きや言葉を模倣しながら主体的に使うなかで、言葉と事物の関係を捉えることができる段階である。

2. 単元名「 レストランで頼もう、作ろう 」(全12時間)

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・絵や写真を見て、食べ物の名前を身振りや言葉で答えたり、教師の言葉を聞いて、言葉が表している食べ物の絵カードを選んだりすることができる。
思考力, 判断力, 表現力等	・教師の話し掛けに応じて、気付いたことや自分の思いを簡単な言葉、身振りや動きで表すことができる。
学びに向かう力, 人間性等	・物や言葉を介してやりとりすることを楽しみ、教師や友達に自分からかかわろうとする。

4. 本時の目標

※「5」を単元で作成する場合は省略可能です。

5. 授業展開【 本時 ・ 単元 】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い
<p>「レストランで、何を作ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんでもレストランには、どんな食べ物があるかな。 ・緑色の食べ物って何かな。からい食べ物って何かな。 ・いろいろな食べ物をパンにはさんで、何ができたかな。 ・サンドイッチを作ろうかな。カレーを作ろうかな。 ・○○を作るには、何を使ったらいいかな。

考えるための材料		
絵本「なんでもレストラン」 (作：鈴木まもる)	具材カード（パン、たまご、チーズ、ハム、キュウリ、レタス、トマト、ゴハン、ニンジン、ニク）	キッチン（まな板、包丁、フライパン、鍋、お玉）
想定される活動		
<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル絵本を、大きく写し出した画像と、手元の絵本を照らし合わせながら見る。 ・教師の「これ、何。」や「何してる。」の問いに、知っている言葉や、手元の絵本からイメー 	<ul style="list-style-type: none"> ・サンドイッチを作るときには、パンのカードを、カレーを作るときにはごはんのカードを最初に手に取る。 ・やりたい動きに必要なカードを手にとって、焼いたり、切ったりする動きを始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具を見て、包丁で切る動きをしたり、お玉で鍋をかき混ぜたりする。 ・切る動きをしながら、「トントントントン。」と言う。

<p>ジした部分を指差したりして答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べる動きや料理を作ったりする場面を動作で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本をめくりながら、流れに沿った具材カードを手に取り、登場人物と同じ動きをする。 	
--	---	--

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

<p>対話の方法（グループ形態、時間設定、留意事項など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせの中で、「これ何。」「何しているの。」と問い掛けたり、具材カードを並べて「何ができるの。」と問い掛けたりする。また、絵本の材料を集める場面では、「緑色の食べ物は何。」や「ほかほかの食べ物は何。」など、色や擬態語でヒントを出して、知っている食べ物を言葉からイメージできるような発問をする。 ・一人ずつ、具材カードを集める活動をして、「何を使うの。」「何を作ったの。」と問い掛ける。 <p>思考のプロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知っている食べ物の名前は、すぐに答えることができるが、動きや状態を表す場面は、「トントントントン」、「じゅーじゅー」と擬音語で表す。 ・絵本の大まかな内容を覚えてくると、使っている具材を色や擬態語を手掛かりにイメージして、具材カードを貼ったり、言葉で答えたりする。 ・単元の後半は、作りたい料理を決めると、必要な具材カードを言葉にしたり、絵本の流れに沿った作る動きをしたりする。 ・友達が作っている動きや言葉を真似する。 ・作る動きや食べる動きが増えると、動きに合った擬音語を使ったり、教師や友達に手渡したりする。
--

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

<ul style="list-style-type: none"> ・「何を作ったの。」の問いに、具材や作った食べ物の名前を言葉で答える。 ・作りたい料理に必要な具材カードを選ぶ。 ・切ったり焼いたりするときの動きを擬音語や擬態語で答える。 ・ひたすら作る遊びに没頭する。 ・絵本に出てくる言葉や台詞を、作る活動をしながら使う。 ・食べている動きをしている友達を見て、「ちょうだい。」や「どうぞ。」と言って、やりとりの場が生まれる。
